



©Yuki Asada

家族の暮らしを支えるクラフト

手織りのクメールシルクやコットンで丁寧に手作りされたコインケースや象のマスコット。カンボジアから届いた温かみあふれる品々の作り手は、スヴァイリエン州とバタンバン州に住む女性たちだ。彼女たちの多くは、出稼ぎに行ったり、内戦で亡くなったりした夫に代わり、家族の暮らしを支えている。

同国南東部のスヴァイリエン州は、土地が痩せ、洪水もしばしば起こることから農業には適さず、これといった産業もなかった。「都会で仕事を紹介する」との誘いにだまされ、若い女性が人身売買の被害に遭うケースも少なくない。

香川県高松市に拠点を置く公益社団法人セカンドハンドがバタンバン州の現地NGOと連携し、スヴァイリエン州で

の自立支援プロジェクトを開始したのは2000年。香川県内で集めた約180台の足踏みミシンを現地へ送り、女性たちが手に職を付け、正規の賃金労働に就くための職業訓練センターを設立した。

セカンドハンドはここで学んだ女性たちが作ったクラフト品を買い取り、フェアトレード商品として日本で販売している。女手一つで子どもを育てる作り手の一人は「仕事を心得、自分が助かっただけでなく、周りの貧しい人を助けることができている」と笑顔を見せる。

セカンドハンド事務局の川内衣梨絵さんは「作り手とお客さまが少しでもつながるよう、お客さまの言葉を現地に伝えることを心掛けています」と話す。「現地での販路開拓もできたら」と夢は膨らむ。



象のマスコットを作る女性。目の位置は特に慎重に。一つ一つ異なる顔も手作りの魅力

★カンボジアの布小物を3人にプレゼント
→詳細は38ページへ

★商品はセカンドハンド高松店、片原店のほか、セカンドハンド各支部が開催するイベントや、以下のオンラインショップからも購入できます。
<https://2ndhand.theshop.jp/>

